

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
現代家族関係論			11365	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

家族についての基礎知識を習得する。現代社会における家族関係の問題に科学的に接近できる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

家族関係への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この講義では、主に家族社会学の立場から家族の諸相に接近を試みる。まず、家族についての基礎知識、家族関係の基本的問題を解説する。また、現代日本の家族が直面している問題をとりあげ、家族関係のあり方について考え議論する機会を設ける。さらに、家族の先端的研究を紹介するとともに、歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶこととする。

授業計画

- 1 家族とは
- 2 家族に関する基礎知識 1
- 3 家族に関する基礎知識 2
- 4 配偶者の選択
- 5 結婚と夫婦関係
- 6 離婚・再婚と家族関係
- 7 ライフコースと家族
- 8 子どもの養育と家族関係 1
- 9 子どもの養育と家族関係 2
- 10 中年期の家族関係
- 11 高齢期の家族関係
- 12 家族に関する政策と法
- 13 家族と社会的ネットワーク
- 14 家族の変化と家族関係
- 15 まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学』培風館

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「子ども家庭支援論」を履修する前に、この科目を履修することが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会福祉論			11369	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
西橋 隆三	選択	2	元市職員(福祉事務所長・障がい児療育センター所長)社会福祉士			

授業の到達目標

高齢化・少子化が同時進行している現代の社会状況の中で、保育、介護、医療等の問題には誰もが直面することとなる。これらの福祉問題の内容を理解し深く考えていくことは、福祉の専門分野に携わっていくためには不可欠なことである。授業では社会福祉の理念、制度や援助などを広い視野から学び主体的に考える力を身に付ける。このクラスでは主にKAISEIパーソナリティのI（知性）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

授業では、社会福祉に関する基本的な項目を学習するとともに、最新のデータや資料によりわが国の社会福祉の動向や課題等を理解できるようにする。指定する教科書の構成に従い授業を進めるが、時事的な問題やキーワードとなる内容などは討議しながら内容を深めて確認する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 保育と社会福祉
- 3 社会福祉の道すじ(歴史の変遷)
- 4 社会福祉の意味と考え方(社会福祉の理念)
- 5 社会福祉の実施体制と財源
- 6 暮らしを支える社会保障制度(生活保護制度を中心に)
- 7 子どもと家族の福祉
- 8 障害のある人の福祉
- 9 高齢者の福祉
- 10 地域福祉
- 11 社会福祉の専門職と倫理
- 12 保育士とソーシャルワーク
- 13 利用者の権利擁護とサービスの質
- 14 社会福祉の課題(子どもの貧困を考える)
- 15 まとめと試験

授業の方法

講義を主体としながら視聴覚教材やディスカッションを取り入れていく。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は不合格とする。

テキスト

相澤譲治・杉山博昭 編集 九訂「保育士をめざす人の社会福祉」みらい 2021年
また、授業の中で必要な資料を配布する。

参考図書

必要な参考図書については授業の中で提示する。

教員連絡先

nishihashi@kaisei.ac.jp

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ボランティア論		17505	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
西橋 隆三	選択	2	元市職員（福祉事務所長・障がい児療育センター所長）、 社会福祉士		

授業の到達目標

わが国のボランティア活動は、幅広い分野において多様な形態で展開されている。授業では、ボランティアの理念・原則・各分野の基本を学習しながら「興味」「関心のあるテーマ」などから主体的に体験活動に参加することを目標とする。また体験活動を振り返ることを通じて、福祉の対象者への関心を高め、将来の社会参加や社会貢献に繋げることを目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）S（奉仕）を養う。

授業の概要

授業では、講義、討議などを織り込みながら、参加のモチベーションを主体的に高めることを促す。「自分にとってのボランティアは何か」「どんな活動ができるか」「ボランティアのあり方は」「ボランティアの意義と課題」など授業を通じて考えていく。まず基本理念や歴史、組織や活動の実際についての概略を学んだあと、人と防災未来センターやJICA関西での外部の機関での学習により内容を深めていく。次にボランティア活動の各分野を学び、まとめとしてボランティア体験を行う。多様な視点からの学びによりそれぞれにとってのボランティアの意義や参加意識を深めていくことがねらいである。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 ボランティアの基本理念
- 3 ボランティアの歴史
- 4 人と防災未来センター及びJICA関西(国際協力機構関西センター)での実習(土曜日)
- 5 災害とボランティア活動(阪神淡路大震災と東日本大震災など)
- 6 国際社会とボランティア活動(JICA関西の事業を中心に)
- 7 社会福祉施設でのボランティア活動
- 8 地域社会とボランティア活動
- 9 環境問題とボランティア活動
- 10 子どもの貧困とボランティア活動
- 11 ボランティア活動の体験準備
- 12 ボランティア体験1
- 13 ボランティア体験2
- 14 プレゼンテーション(体験活動の成果)

15 まとめとしての講義の後、ボランティア体験活動のレポート提出を求める

授業の方法

講義を主体としながらディスカッションや視聴覚教材を取り入れていく。ボランティア活動を体験することが重要であり事前学習や事後学習で準備していく。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、レポート及びプレゼンテーション70%で評価します。プレゼンテーションには積極的な参加を期待します。

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

特に指定はしない。必要な資料を配布する。

参考図書

必要な参考図書については授業の中で提示する。

留意事項

- 1.人と防災未来センター及び国際協力機構関西センターでの学習に参加すること（土曜日）
- 2.ボランティア活動を体験することが必要です。

教員連絡先

nishihashi@kaisei.ac.jp

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
図画工作	①/②	17509	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士		

授業の到達目標

改訂の趣旨を踏まえ、図画工作科の目標と内容を演習・実習を通して理解する。また、造形表現の発達の過程や特徴について知る。そして、自己表現の喜びや達成感を得られ、豊かな情操をはぐむ指導の在り方を理解することを目指す。表現意欲や鑑賞活動を重視することで、個々の表現の多面的理解に努める。実習を通して児童の思いを推測し、適切な評価ができる力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

子どもの発達に即した表現方法や、材料・用具の基本的な扱い方について、講義と実習を行う。また、鑑賞の機会を重視し、各自の表現のよさや工夫等を見出すため評価シートやポートフォリオを作成する。情報機器を活用し、発表の機会をもつ。そして、感性を高め合い、実践力を養うようにする。作品の一部は地域や学内の子育て支援活動にいかす。

授業計画

- 1 図画工作科の改訂のポイントと資質能力
- 2 図画工作科の内容と幼稚園からの接続、中学校への接続
- 3 造形的な視点 色と形の出会い
- 4 造形遊びをする活動 並べたり積んだりして
- 5 絵に表す活動 パスを使って
- 6 絵に表す活動 筆やペンを使って
- 7 立体に表す活動 土粘土を使って
- 8 立体に表す活動 教材用粘土を使って
- 9 工作に表す活動 伝統文化と関連して
- 10 工作に表す活動 様々な用具を扱いながら
- 11 身近な材料を使った表現 リサイクルの視点で
- 12 生活に役立つものを作る 防災の視点で
- 13 生活を楽しく豊かにする鑑賞の活動
- 14 情報機器を活用した活動
- 15 外部資源の活用と連携 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義と実習・演習を主とする。制作した作品をもとに鑑賞活動を深め、学び合いの機会をもつ。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①実習課題の構想シート、制作物、ポートフォリオの提出を求める。講義においてフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』

留意事項

実習・演習は、学習課題により個人もしくは小グループで行う。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。